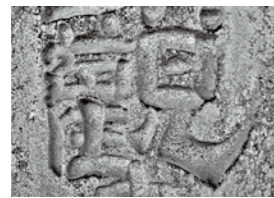


施設名	展覧会・イベント	日時・場所	費用・定員・申し込み
豊科交流学習センター「きぼう」 熊井啓記念館 Tel71-2463	熊井啓記念館ミニシアター 帝銀事件 死刑囚	2月14日(水)10:00~12:00 豊科交流学習センター「きぼう」 2階多目的交流ホール	無料 定100人(当日先着順)
貞享義民記念館 Tel77-7550	瀧澤伸介水彩画展	2月17日(土)~3月3日(日) 9:00~17:00 1階企画展示室	無料(常設展は要入館料)
文書館 Tel71-5123 Fax71-5127	バックヤードツアー ~文書館って何するところ?~	2月25日(日) 13:30~15:00(受付13:00~) 2階講義室	定30人(先着順) 1月22日(月)から電話・ファクス・電子メール(bunshokan@city.azumino.nagano.jp)で

■休館日、開館時間などは各施設へお問合せください

講演会 安曇野の先駆者 高島章貞と交友・佐久間象山



高島章貞書「観」  
(重柳・馬頭観世音文字碑より)

2月18日(日) 14:00▶15:30 穂高公民館第2会議室

幕末期に穂高で星園塾を開き、松澤求策の師としても知られる高島章貞の人物像と、親友・佐久間象山の正しい呼称について語ります。

講師 丸山楽雲さん(書画篆刻国際作家)

費用無料 定70人(先着順)

1月22日(月)から2月16日(金)に文化課へ  
電話・ファクス・電子メールで

Tel71-2465 Fax71-2338

✉bunka@city.azumino.nagano.jp

小説『安曇野』の登場人物を知ろう!  
第10回 荻原碌山と親交



なかむら ふせつ 中村 不折

書家・画家として知られる中村不折。小説『安曇野』では、主要人物である彫刻家の荻原碌山と親交のある人物として何度か登場します。新宿中村屋のロゴをはじめ、不折が手掛けた書は現在も身近に見られます。江戸時代末期の1866年、現在の東京都中央区で生まれましたが、明治維新の混乱を避けるため父の郷里である高遠(現在の伊那市)へ移りました。伊那や飯田で教師を務めました。本格的に絵を学ぶため22歳のときに一念発起して上京しました。のちに碌山も通う画塾「不同

舎」に入塾。正岡子規が編集する新聞で挿絵を描くなど活躍し始めます。36歳で絵を学ぶため渡仏し、2年後にニューヨークから渡仏した碌山と親交を深めました。帰国後、夏目漱石の小説『吾輩は猫である』の挿絵など、多くの作品を世に送り出しました。不折は質素な生活を続け、稼いだお金を書道の資料収集に費やしたことも知られています。不折のコレクションは現在、台東区立書道博物館(台東区根岸2丁目10番4号)で見ることができます。

邂逅と対話の安曇野紀行  
「荻原碌山の墓」

檜板の看板に、中村不折の書を乞いたいという案を出したのは、良であった。不折は、太平洋画会研究所で、守衛の大先輩であり、同郷の出身者でもあったので、中村屋とも顔馴染になっていた。

(小説『安曇野』第2部その二十一より引用)

中村不折は引用のとおり新宿中村屋のロゴを手掛けたほか、穂高にある井口喜源治や荻原碌山(守衛)の墓の墓碑銘(写真)も書いています。長野県内との関連では、宮坂醸造(諏訪市)の日本酒「真澄」の題字も不折による書です。



展示品の制作風景(ワークショップにて)

Azumino Municipal Museum of Modern Art, TOYOSHINA  
安曇野市豊科近代美術館

2月3日(土)▶25日(日)

開館時間 9:00~17:00  
休館日 月曜日・祝日の翌平日  
入場料 無料(常設展は有料)  
問い合わせ Tel73-5638

豊科近代美術館 冬の企画展  
安曇野市中学高校美術部展 10α  
現代の中高生は、スマートフォンやタブレットなどのデジタル機器を使いこなし美術を楽しんでいます。そんな若い感性が作り上げた作品を展示します。

募集  
貞享義民記念館  
企画展出展者



記念館企画展示室で作品展を行う皆さんを募集します。

※市内在住・在勤・在学の人

1月17日(水)から2月20日(火)に申込書を直接・ファクス・郵送で。申込書は記念館または同館HPから入手できます。

〒399-8101三郷明盛3209  
Tel77-7550 Fax77-7551

募集  
遺跡発掘作業員



緊急で発掘調査をする際に、協力いただく登録者を募集します。

※市の歴史や文化に興味のある人、市内の発掘現場に通勤でき作業を行える人

文化課へ直接または電話で  
Tel71-2464

縄文時代は、土器の形や特徴によつて草創期、早期、前期、中期、後期、晩期の6期(※)に分けられています。そのうち草創期・早期には地面に埋めて使用した尖底や丸底の煮炊き用鍋である深鉢が主流でしたが、早期後半頃には地面に置いて使用する平底となりました。前期には浅鉢が登場し、中期にはさまざまな器形が見られるようになり、時代の変遷と共に文様の種類も

豊富になりました。写真は、穂高牧他谷遺跡で出土した中期中頃の代表的な抽象文土器です。口縁部に抽象化した顔の取っ手が、胴部には大きく口を開けた水棲生物をかたどった文様が付けられています。市内では、草創期の遺跡は今のところ発見されておらず、早期・前期の遺跡もあまりありません。しかし、中期の遺跡は数多く見られ土器も数多く出土しています。



他谷遺跡の抽象文土器

※縄文時代 6期  
草創期 約1万6000~1万1000年前  
早期 約1万1000~7000年前  
前期 約7000~5400年前頃  
中期 約5400~4400年前  
後期 約4400~3400年前  
晩期 約3400~2300年前

第19回  
コラム 市誌編さんだより  
縄文時代の土器  
市誌編さん専門調査会考古部会  
専門調査員 島田哲男